

国語 (現代文)

早稲田大学 文学部 1/4

<総括>

出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間	90分
-----	-----------------	------	-----

ここ数年は評論2題の構成が続いていたが、今年は評論1題、随筆1題。設問数は昨年度と同じく17問。抜き出し問題がなくなり、漢字の書き取り以外はすべてマーク式の問題になった。ただし、こうした傾向が今後も続くかどうかは不明である。

<本文分析>

大問番号	(一)	(二)
出典 (作者)	橋本祐子「裁判官は感情に動かされてはならないのか？」(『現代思想』青土社2023年8月号)の一節。途中、省略がある。	田中優子『『野の果て』の世界』(『図書』岩波書店2023年7月号)の前半部分。途中、省略がある。
頻出度合 ・的中等	この著者の文章が入試に出題されるのは稀である。	この著者の文章は入試でしばしば見られる。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加) 約5010字。昨年とほぼ同じ。	分量 (減少 ・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2720字。昨年より約780字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(一)	社会論	問一	マーク	標準	空欄に入る語の組み合わせを選ぶ。選択肢を総合的に判断すること。
		問二	マーク	標準	空欄補充。〈直後の「誤った感情理解」=同じ段落末尾の「二項対立的理解」〉に該当するものを選ぶ。
		問三	マーク	標準	傍線部内容説明。「こうした感情 (=正義感覚)」を「どうやって養うか」という内容を言い換えたものを選ぶ。
		問四	マーク	やや難	空欄補充。E=ハ、F=ニ、G=ホ、H=ロ、I=イ。各空欄直後の文の内容にも留意する。
		問五	マーク	標準	傍線部理由説明。ロとやや迷うが、傍線部4直前と本文全体の趣旨からハを選ぶ。
		問六	マーク	標準	傍線部内容説明。「同情」が偏りのない裁判の「条件=前提」である、ということの説明したものを選ぶ。
		問七	マーク	標準	傍線部理由説明。問われていることが本文に明記されていないので、本文の論旨を踏まえて消去法で考える。
		問八	マーク	標準	趣旨判定。問五～問七と同じく、本文全体の論旨を意識して答える。
(二)	随筆	問九	マーク	標準	脱落文の挿入。ハとやや迷うが、ホに脱落文を入れると、「背後」にある「風土」の「さらに」「向こう」に「自然の理」があるという文脈になり、破綻がない。
		問十	マーク	やや易	空欄補充。空欄の直前および4行後の内容などに注目。
		問十一	マーク	標準	傍線部内容説明。「一つ一つの命に…とことん関わる」を言い換えたものを選ぶ。傍線部B直前にも注目。
		問十二	マーク	標準	傍線部内容説明。「主語は志村さんではない」に続く内容になっているものを選ぶ。
		問十三	マーク	標準	傍線部理由説明。「見えない世界から出現してまたそこに戻っていく」に即した内容のものを消去法で選ぶ。
		問十四	マーク	標準	空欄補充。「不正確」で「実態がない」が、「一つの…世界」を示してはいる、という点から考える。
		問十五	マーク	標準	内容合致。「色」について述べた本文後半の内容と、各選択肢を照合し、消去法で解答を決める。
		問十六	マーク	標準	趣旨判定。イは「世界の多くの人々に」、ロは「学識」、ニは「歴史」、ホは「未来に伝承」が誤り。
		問十七	記述	やや難	漢字の書き取り。1「堪能」は、辞書によっては「堪納」「湛能」も許容されている。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

多様な評論や随筆に取り組んで問題演習をしておくといよい。本文の全体の構造、および空欄や傍線部の前後の文脈を正確に把握するとともに、それらを通して理解した事柄を踏まえて選択肢を吟味する練習を怠らないようにしましょう。

国語 (古文)

早稲田大学 文学部 3/4

<総括>

出題数 現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間 90分

古文の学力を広範囲にわたって問うオーソドックスな出題であった。

<本文分析>

大問番号	(三)		
出典 (作者)	顕昭『袖中抄』		
頻出度合 ・的中等	稀。		
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加)	約 1090 字。昨年より約 40 字増。	
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・ やや難化 ・難化)		

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	
(三)	歌論	問十八	マーク	やや難	内容説明 (和歌についての教長と顕昭の解釈の違いを読み取る)。	
		問十九	マーク	標準	和歌の内容説明。	
		問二十	記述	やや難	和歌修辞 (掛詞を漢字で記す)。	
		問二十一				
		4	マーク	やや易	文の意味 (ここでの「ことば」の語義に注意)。	
		5	マーク	やや易	文の意味 (「いたし」は動詞「いたす」の連用形)。	
		問二十二	マーク	易	文法 (傍線部に見出せない活用形を選ぶ)。	
		問二十三	マーク	標準	内容説明 (「末代に」に注意)。	
問二十四	マーク	標準	内容合致 (著者顕昭の認識として適切なものを選ぶ)。			

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

古文の知識を広く身につけ、文章を細部まで丁寧に読み進めていく力を養成しておくこと。和歌の学習も怠らないこと。

国語 (漢文)

早稲田大学 文学部 4/4

<総括>

出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間	90分
-----	-----------------	------	-----

昨年度は日本漢文による詩話であったが、今年度は散文であり、歴史書とその注釈という構成であった。設問は6題で昨年度と変わらず、そのうち2題が記述問題である点も変化はなかった。書き下しの問題、解釈の問題、説明の問題などオーソドックスであり、今年度は本文全体の趣旨に関わる問題も出題された。例年、設問に関わる箇所は白文もしくは返り点のみ施されていることが多いが、今年度も複数箇所が白文で出題された。

<本文分析>

大問番号	(四)
出典 (作者)	A『資治通鑑』巻九十九「晋紀二十一」 B『資治通鑑』胡三省の注
頻出度合 ・的中等	『資治通鑑』は頻出。ただし当該箇所は稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 291字 (Aは129字、Bは162字)。昨年より94字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(四)	歴史	問二十五	記述	標準	抜き出しの問題。「異」が「優れている」という意味で用いられていることに注意する。
		問二十六	マーク	標準	理由説明の問題。Aの「未有至者」とBの「所以無以応也」が対応していることに着目する。
		問二十七	マーク	やや易	意味の問題。傍線部の「度」はBの「渡」と同じ意味であると捉える。
		問二十八	記述	易	返り点を補う問題。「鎮服」に返ることに注意する。
		問二十九	マーク	やや難	書き下しの問題。傍線部の主語が「温」であること、傍線部の「有内潰之変」と直後の文の「無内変」が対応していることに注意する。
		問三十	マーク	やや難	解釈の問題。桓温と王猛のやりとりを的確に捉え、本文全体の趣旨にもとづいて解答を導く。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

漢文の基礎知識を徹底的に身につけ、緻密な読解力を養成する必要があるのはいままでもないが、設問に関わる部分の訓点省かれる傾向があるので、白文対策も必要である。主語・述語の関係など漢文の基本構造を読み取り、白文に返り点・送り仮名を付ける練習をしておきたい。また、漢詩に対しても十分準備をしておくこと。